

# 市民協働事業 相互評価シート

## 1 市民協働事業の概要

事業名称	協働の「地域づくり大学校」事業（泉区まちづくりみらい塾）	
事業の実施者	団体等	泉区まちづくりみらい塾 認定NPO法人市民セクターよこはま
	行政	泉区役所区政推進課
事業の目的	過去10年間のまちづくりみらい塾卒業生がみらい塾で学んだこと、自身の取り組みに生かされたことや反省点等を話し合う機会を設ける。さらに、新型コロナウイルス感染症の流行下であっても地域活動をしている事例紹介や現地見学会を行うことで、地域活動再開のきっかけとなるような場とする。	
事業の内容	企画会を経て、10周年セレモニー、講義、グループワーク、現地見学会を通じてコロナ禍の先を見据えたまちづくりの実践を学ぶ。 第1講 開講式・みらい塾卒業生による事例発表 第2講 現地見学会（4か所） 第3講 ミニプラン発表・修了式・10周年記念セレモニー	
役割及び責任分担等	別紙協働契約書のとおり	
実施期間	令和3年7月2日～令和4年3月31日	

記入日	令和4年3月24日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体等名：泉区まちづくりみらい塾</li> <li>・記入責任者 氏名：佐久間 幹雄</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体等名：泉区役所</li> <li>・記入責任者 氏名：区政推進課地域力推進担当課長 栗竹 史明 連絡先：800-2333</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体等名：認定NPO法人市民セクターよこはま</li> <li>・記入責任者 氏名：吉原 明香 連絡先：222-6501</li> </ul>

# 1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

## ◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

### ① 事業計画段階

		みらい塾	セクター	泉区役所
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	C	A	B
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	A	A

### ② 事業実施段階

		みらい塾	セクター	泉区役所
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A	B
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	B	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	B	B	B
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	B	B	B
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	C	A

### ③ ふりかえり段階

		みらい塾	セクター	泉区役所
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A	B
4	期待された事業成果を得ることができたか。	A	A	A

## 2 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

### 事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

<共有できたこと>

- ・みらい塾卒業生との講座の企画会を行い、卒業生の意見をヒアリングしたことで、受講者目線に立った講座へと反映することができた。(卒業生やその他の受講生とのつながりを重視した点など)
- ・「第1～9期受講生」と「新規受講生」の両者を、第10期の参加対象者としてプログラムを検討することについて3者で共有し、企画を進めることができた。
- ・「卒業生(第1～9期受講生)」においては、卒業生同士がつながり合う場や機会を期待するニーズがあることから、第10期みらい塾の目標として「つながるきっかけづくり」を設定した。
- ・「新規受講生」においては、主にコロナ禍で地域や社会に関心を持つ若い世代が活動に参加するきっかけになるよう、声掛けしていくことを共有した。
- ・企画会に参画された卒業生に、本編の事例発表・訪問でも関わっていただき、卒業生・新規の受講生の方たちとのつながりづくりの場にするのを共有し、講座を企画した。

<認識に違いがあったこと>

- ・第2講の現地見学先を選定するにあたり、訪問歴のある見学先について良い活動事例なので再び訪問したいという考えがある一方で、新しい見学先を開拓したほうが良いという考えがあった。3者で協議しながら、合意の上、見学先を決定することができた。
- ・卒業生の講座への参加方法や頻度について認識の差があった。講座回数が3回と限定されている中ではあったが、3者で意見交換し、卒業生が参加できる機会を提供できた。

#### 【今後改善が必要と思われること】

- ・若い世代を参加の対象とした場合、効果的に情報発信するために、SNS等、世代にあった広報媒体を活用することを検討する必要がある。
- ・新たな地域の担い手発掘・育成のため、現役世代をターゲットにした講座構成に変更していく必要がある。

### 事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

#### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

<共有できたこと>

- ・コロナ感染症の状況下でもオンラインを取り入れたハイブリッド開催(現地開催とオンライン開催を併用した開催)をすることで中止・延期等することなく講座を運営することができた。(第1回:ハイブリッドでの実施/Zoomミニ講義、第2回:宮ノ前テラス訪問のオンライン配信、第3回:ハイブリッドでの実施)
- ・オンライン実施が十分に普及していない中、対面に比べ発言が聞き取りづらくなることや受講生の反応

がわかりにくくなることなどを考慮し、運営体制の充実やオンライン環境の整備が必要であることが共有できた。

・各講に臨むにあたって、受講生との連絡・調整役、事例発表者（第1講）、訪問先（第2講）との連絡・調整役をそれぞれ分担し、スムーズに進めることができた。

・受講者の出欠や提出物の状況を随時報告しあったことで、講座毎に状況を把握することができた。

<認識に違いがあったこと>

講座を実施していく中で、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じてオンライン開催を実施するという認識と全ての講座で受講者がオンラインでも参加できるようにするという認識の差があったが、受講生の状況や運営体制等を見ながら調整することができた。

#### 【今後改善が必要と思われること】

・オンライン開催について、音響機器が上手く設定できず聞き取れないことがあった。

・訪問先によって当日の事務局担当者が異なる場合、訪問先と打ち合わせた事項を事前に当日担当者と共有するための時間を要し、実際に共有ができなかった訪問箇所あった。そのため、複数箇所の個別訪問を実施する際には、訪問先ごとに主担当を決めて調整や打合せを進める形や当日担当者が事前打合せに必ず同席する形にするなど工夫が必要と考えられる。

・区役所大会議室を会場として、ハイブリッド、ないしオンラインのみで実施する場合、区役所会議室の音響設備および区役所備品（パソコン、カメラ）、インターネット環境をもとに、どのようなセッティングが、より安定的に映像・音声を配信するために理想的か検証が必要と思われる。

・市民セクターよこはまと区役所の勤務日が異なることから、事務作業の進行に時間を要したため、勤務スケジュールを互いに共有できるツールがあればよい。

#### 事業の成果

（協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。）

・泉区において長きにわたって地域活動をされてきた方々を紹介する「活動の継承」の冊子の中に、まちづくりみらい塾が10年間積み重ねてきた貴重な記録を残すことができた。

・第10期の泉区まちづくりみらい塾にあたり、今後に向けたつながりづくりに重点を置くことを、まちづくりみらい塾事務局・区役所・市民セクターよこはまの3者で共有し、それぞれに、これまで取り組んできた実践の蓄積とネットワークを活かして企画・運営を進めることができた。

・市民セクターよこはまが共同事業体として管理運営に関わる市民協働推進センターへの相談者のうち、泉区内で地域活動を検討している方たちに対して「第10期泉区まちづくりみらい塾」を紹介することで、地域とつながるきっかけを提供することができた。

・全体3回と回数に限られ、また、第3講のプラン発表会においてはオンライン開催となる中で、プログラムの工夫（第3講でのプレゼントシートの作成・送付等）について考え合った結果、受講生、卒業生とのつながるきっかけをつくることができた。

- 「宮ノ前テラス」で開催されたイベントへのボランティア参加

- 「みんなの絵本のおうち」へのボランティア参加

- 防災をテーマにしたつながり（受講生から卒業生への働きかけ）

- 受講生によるプランより、自身の地域の町内会でのサロンと「おはなしの風（第2講訪問先）」とのコラボ提案 など

#### 自由記入欄

・10周年の節目として、セレモニーをみらい塾プラン発表会と併せて実施するほか、セレモニーの中で、

みらい塾の取組が載っている「活動の継承」を紹介することで、10年目にふさわしいまちづくりみらい塾を開催することができた。

- ・まちづくりみらい塾としては10周年で終了となるが、10年間の積み重ねを活かしつつ、今後に向けては、コロナ禍等、様々に変化する地域や社会における状況・ニーズに応じた、学びの実践や参加のきっかけづくりを検討していくことが課題として挙げられる。

- ・具体的には、コロナ禍によってもたらされた社会全体の変化（リモートワークで働く人の増加やオンラインによるコミュニケーションの一般化など）や、地域のニーズ（高齢者のフレイル問題や貧困世帯の増加、地域自治組織への支援の必要性など）を捉え、どのような学びの場を今後進めていく必要があるのか、住民参加で考え合う企画会等を（可能であれば福祉保健セクションと共に）実施したいと考える。

- ・まちづくりみらい塾の10年の経験を生かして新たな地域活動の人材発掘・育成事業につなげていきたい。

- ・みらい塾卒業生が地域の担い手になるまでの支援に力を入れて取り組んでいきたい。